

「子宮頸がん」のこと。

「子宮頸(けい)がんなんて、自分には関係ない」と思っ
ていませんか。子宮頸がんについての知識を深め、予防
と早期発見に努めましょう。

子宮頸(けい)がんとは

子宮は、女性にしかない特別な臓器の
一つです。この子宮の入り口付近、「子
宮頸(けい)部」にできるがんを「子宮
頸(けい)がん」といいます。(左図参照)

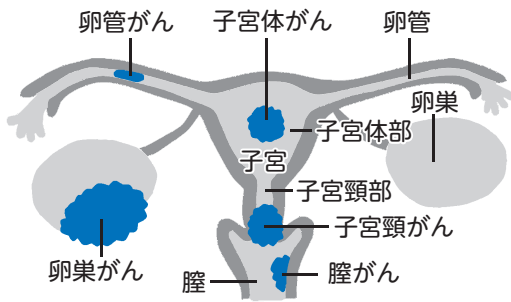


図:子宮の構造と女性性器がんの種類

子宮頸がんは、ほかのがんと異なり、
その原因がヒトパピローマウイルス(H
PV)というウイルスの感染にあること

が、わかっています。

HPVは、どこにでもあるありふれた
ウイルスで、皮膚と皮膚の接触(性交渉)
により感染するため、誰もが感染する可
能性があります。多くの場合は自分の免
疫力により自然に消えますが、感染が続
く場合もあります。また、感染しても自
覚症状はありません。

増え続ける子宮頸がん患者

子宮頸がんは、女性特有のがんのうち、
乳がんに次いで多いがんで、20歳代から
40歳代での発症が多くみられます。

近年は、若い女性の発症率が増加傾向
にあり、特に20歳代から30歳代の女性で
は、発症するすべてのがんの中で子宮頸
がんが最も多くなっています。(次ペー
ジグラフ参照)

また、子宮頸がんは、初期症状が全く
ないことがほとんどで、自分でも気付く
ことがなく、異変に気付いたときには、
がんが進行し、子宮や子宮のまわりの臓

器を摘出しなければならなくなることも
あります。

子宮頸がんは予防ができます

子宮頸がんは予防ワクチンを接種(3
回)することで、原因ウイルスの感染か
ら長期に体を守ることが可能となりま
す。ただし、このワクチンは、すでに感
染しているHPVを排除したり、子宮頸
部の前がん病変(がんになる前の状態)
やがん細胞を治したりする効果はなく、
あくまで接種後のHPV感染を防ぐもの
です。

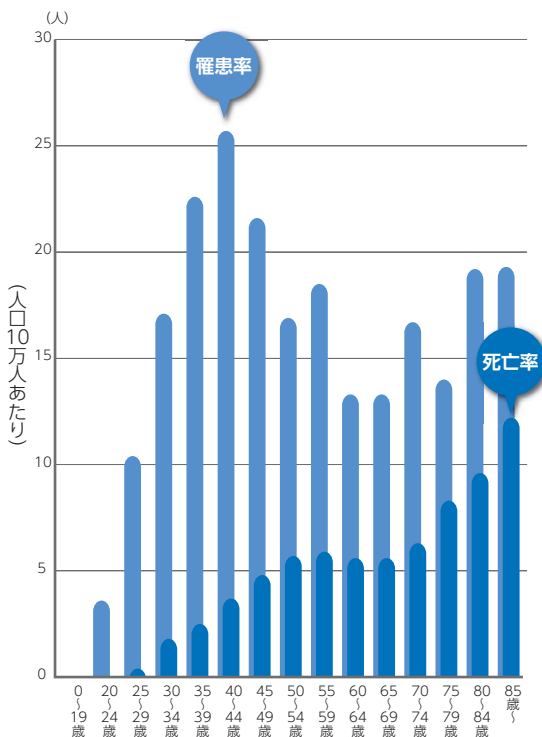
20歳を過ぎたら子宮頸がん 検診を受けましょう

子宮頸がんは、定期的な検診によって
前がん病変を発見することができ、がん
になる前に治療が可能な病気です。検査
は数分程度で終わるものですので、20歳
を過ぎたら検診を受け、早期発見に心掛
けましょう。

また、ワクチンを接種していても、そ
の効果の持続期間は今のところはつきり
とわかっていませんので、ワクチンを接
種したからといって安心せず、検診を受
けるようにしましょう。

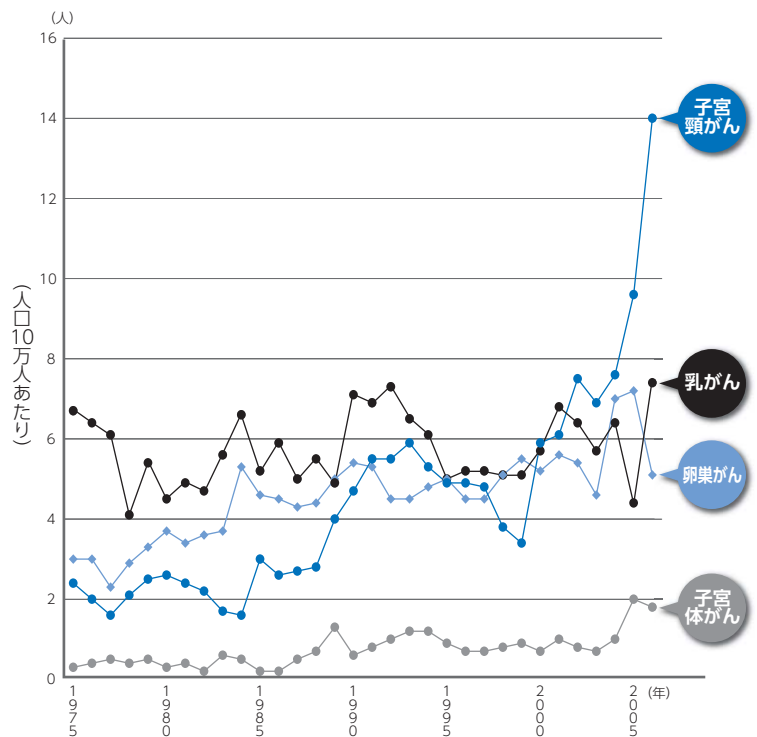
知ってほしい。

人口10万人あたりの子宮頸がんの罹患率 (病気にかかる率・2006年) と死亡率 (2010年)



※出典・国立がん研究センターがん対策情報センターデータベースより

20歳～29歳の女性の人口10万人あたりの各種がんの罹患率 (病気にかかる率)



※出典・国立がん研究センターがん対策情報センターデータベースより



子宮がん (子宮頸がん) 検診 は美濃病院で受けられます

万が一、検診でがんが見つかった場合は、その進行度によって薬物治療、放射線治療、外科治療などの治療方法が用いられませんが、子宮頸がんは、早期に発見できれば十分治療可能な病気です。

受付時間 (平成24年2月現在)

● 毎週水曜日、木曜日 (午前8時30分から午前11時30分)

● 第1、第3金曜日 (午前10時30分から午後2時)

※詳しくは、美濃病院 (☎33・1221) に問い合わせください。